ひとり親世帯 を支援する給付金を支給します

子育て世帯生活支援特別給付金

新型コロナウイルス感染症による家計への影響が長期化する中、ひとり親の子育て世帯に給付金を支給します。下記のフローチャートでⒶ・Ⓑに該当した方は申請が必要です。

給付額▼児童1人あたり5万円

給付対象▼令和4年3月末時点で18歳までの児童または20歳未満で一定の障がいのある児童

令和4年4月分の児童扶養手当の支給を受けている方には別途通知を送付しています。

申請書などは、すこやか窓口と市ホームページで配布しています。

申請期間▼令和5年2月28日㈫まで

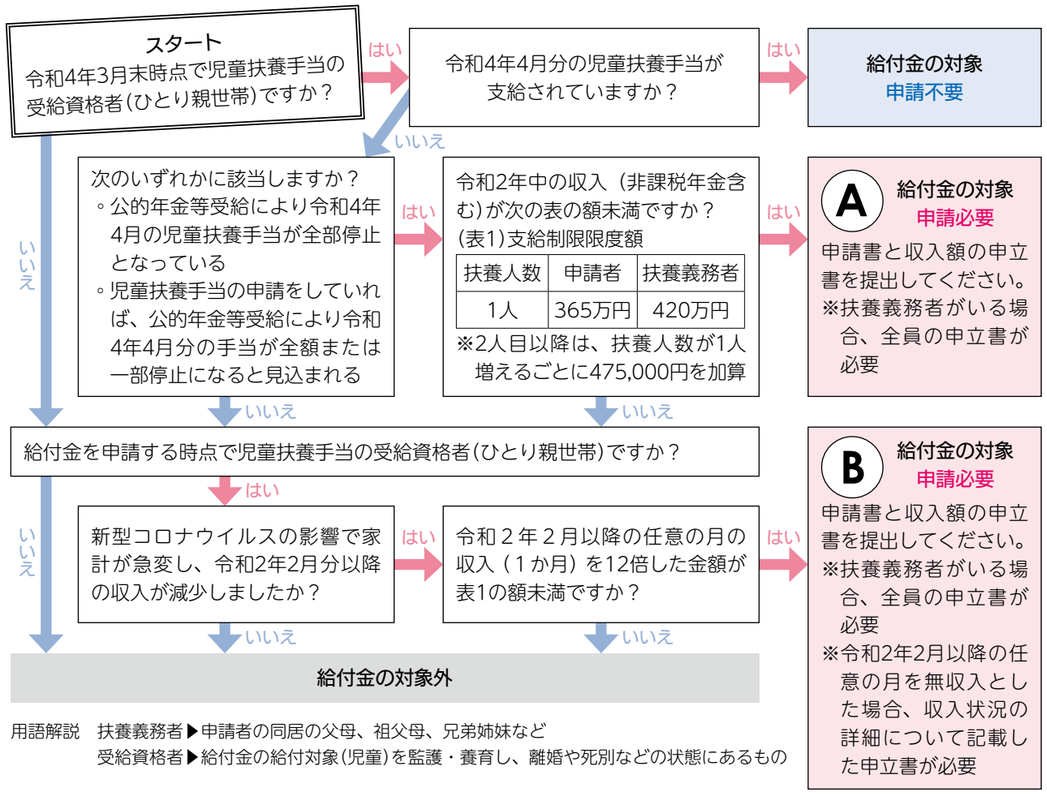
申請場所▼すこやか

準備物▼本人確認書類（運転免許証、健康保険証など）、受取口座の通帳またはキャッシュカードの写し、申請者と扶養義務者の収入が確認できる書類など

※児童扶養手当の認定を受けていない方は、申請者と児童の戸籍謄本

※障がいがある方は、特別児童扶養手当証書、障害年金に係る年金証書など

問福祉児童課（すこやか内）☎87-0777



用語解説　扶養義務者▶申請者の同居の父母、祖父母、兄弟姉妹など
受給資格者▶給付金の給付対象（児童）を監護・養育し、離婚や死別などの状態にあるもの

JCHO-Column

怪しげなサプリメントに走る前に

福井勝山総合病院
麻酔科部長　小原　洋昭

今から20年ほど前、「アガリクス茸」なるものが話題となっていたことを覚えておられるでしょうか。「奇跡！余命半年の癌が治った！」だの「学会でも絶賛！」だのさまざまなうたい文句がメディアを賑わせていました。その後は有用性が認められないとのことで次第に尻すぼみになっていったわけですが、いまだ巷には数多くの、怪しげな効果を謳うサプリメントが溢れています。

プラセボ効果というものもありますし（痛みに関してはプラセボでも最大30％の効果を発揮するといわれています）、本人や家族が満足ならばある程度は許容すべき部分もあるでしょう。しかし世の中副作用のない薬はありませんし、特に病人の弱った心に付け込んで高額の商品を売りつけるといった商法は倫理的に許されるべきではないと考えます。

「溺れる者は藁をもすがる」の言葉通り、病気になれば人は気弱になるものです。心の迷いからそういったものに手を出してしまう気持ちも分かります。サプリメントの類に関して医学会での明確なガイドライン（これに対してはこうすべき、といった指針のことです）はありませんが、おおまかなコンセンサスの得られている事（それならまぁ納得できますよ、と多くの医師が賛同する事項です）として、次のことに留意してみてください。

①長く使い続けられていること

時の淘汰を経ている、ということです。有害事象が多かったり効果がなかったりすれば廃れていくからです。

②安価であること

大前提として良心的であること。金銭のみを目的とした悪質な商法である危険性を避けることができます。

③過大な謳い文句がないこと

「末期がんが消失！」だの「奇跡の効果！」だのは良い判断材料です。うますぎる話には要注意です。

まずは、西洋医学的に確立されている治療法に準ずるべきです。高額なサプリメントに手を出す前に、ご一考いただければと思います。

ふるさとを訪ねて

～地域文化を掘り起こそう～

シリーズ「市内の小学校」㊿

市史編纂室　山田　雄造

平泉寺小学校

平泉寺地区には明治初年に以下の3校の小学校が設立された。明治5年（1872）、平泉寺区に龍池小学校が赤尾（～7年迄）・平泉寺・岡横江・片瀬（～7年迄）の4区で設立された。翌年には岩ケ野区に壁蔵（～14年迄）・岩ケ野・大矢谷・小矢谷の4区で岩ケ野小学校が、7年には大渡（後笹尾）区に大渡・赤尾・笹尾3区で筈野（はこの）小学校が設立された。

岩ケ野小学校は明治25年に廃校となり筈野小学校に合併された。ただ大矢谷・小矢谷は離れているため大矢谷に35年までは分教場が設けられた。

平泉寺村は明治22年に池ケ原を含めると10区で成立した。その後、大正期も後半になると一村一学校の動きが高まり、大正9年（1920）、龍池と筈野小学校が合併し平泉寺尋常（じんじょう）小学校が設立された。しかし村内の児童数は多く400人を超えるため、第一仮教場と第二仮教場を設け、複式学級として出発した。

同年の学校新築に関する書類の「高等科併置認可申請」（平泉寺役場文書）に、高等科設置の必要性を以下のように記している。「最近はより高い教育を受けようとする風潮が高まってきている。しかし近辺の高等科は大野坂谷あるいは勝山まで行かねばならず、とくに冬季には通路困難もあり欠席・遅刻が多く、下宿が必要である。」

高等科は10月に認可となったが、名実ともに一村一校として新校舎が落成したのは大正14年12月である。写真1の校章（高さ…台座も含め57㎝、校章の横幅…41㎝）は翌年それを記念して作られたものである。

写真2は昭和8年（1933）当時の旧校舎、現在の校舎は新学制になって以後、昭和50年に本館が完成した。

写真1　校章（三本杉）

写真2　旧校舎